

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！
「国鉄35万人体制」粉碎
三里塚ジェット燃料増送阻止・備蓄ゼロ
10.31 減産 から 11.1 ストライキへ！



10.28-29-30
ジェット燃料増送阻止

ジェット燃料増送阻止
新小岩でスト3輛を

第2波勝利のため(III)

ジェット燃料増送阻止ノ 11・1 歴史的な第二波ストライキにむけ、断固たる火ぶたが切られて落された。一〇月二八、二九、三〇日の三日間、ジェット燃料増送用D11の佐倉機関区への強行搬入に対し、われわれは新小岩支部を先頭に断固たる阻止闘争に決起した。二八日夜、搬入された第一輛目が新小岩で立往生したのをはじめ、二九日早朝、三〇日早朝と連続決起の中で、計三輛のD11は千葉(佐倉機関区)への搬入を完全に阻止された。 勤労千葉11・1ストへの露骨なスト破りとして、動労「本部」反動集団の卒先協力のもとで、はるばる門司・岡山・新潟から東京地本川新鶴見・大宮・武蔵を経て送り込まれたこれらジェット増送用のD11機関車三輛は、新小岩支部および青年部の怒りの決起の前に、千葉への入口たる新小岩で阻止され、ついに機関区構内に押し込められた。深夜のろう城体制で連続決起した青年部がD11を包囲し、直ちにスローガン闘争に入る。D11は、またたく間に怒りのスローガンでいっぱいとなり、11・1スト貫徹にむけた不退転の決意を示したのである。

11・1の増送強行を断じて許すな！
10・22第一波闘争は、当局・公団および、その忠実な先兵スト破り集団動労革マルに、さまざまの打撃と恐怖を与えた。

われわれは、これまでもハンドルの握って以来今日までに、全ゆる困難をかいくぐり、二二本の燃料列車と四輛のタンクを實力阻止(飛行機一機分は燃料約一タンク分に相当する。換算すると三六〇機分の飛行機を阻止したことになる)してきたが、更に第一波10・22ストは、これに決定的な追い打ちをかけたのである。

「燃料供給に赤信号」備蓄量三日分に頭抱える公団」ージェット燃料備蓄量はほとんど底をついており、公団は国鉄に対し「一日実施」を強く要望している。(一〇月二六日付「千葉日報」) それ故、今、これら敵・反動どもは、なりふりかまわぬ11・1第二波ストつぶし、弾圧、増送強行にうって出ようと必死である。

しかも、政府・公団は、あの滑走路一本のみの欠陥空港に「国際空港」の名を冠して暫定開港を強行したが故に、今、各国からの飛行増便要求との板ばさみであえいでいる。十一月一日より(一日一〇便の)飛行増便のノータムを世界各国に出しておきたから、九月一日より計画していた燃料増送(一日五〇〇機増)がわれわれの闘いによって、阻止されてきているばかりか、逆に、備蓄ゼロ・廃港への危機におちこんだのである。

国鉄当局は本社を先頭に、11・1スト破壊のために関東全域から助役機関士をかき集め、鉄道公安官を総投入し、権力は刑事弾圧・介入のスキを狙っており、その先兵を買って出た動労革マル分子が「スト反対」を叫んで、職場攪乱を策動し処分を哀願し、スト破りのD11を卒先して送りこん

できているのである。

だが、労農連帯に支えられ、日本労働運動の真に闘う再編を目ざすわが一四〇〇の決意の前には、ものの数ではない。成田、佐倉の仲間を包みこみ一四〇〇名全員の総力決起を勝ちとっていかう。

10・31スト前夜総決起集会へ
動労千葉闘争委員会は、一〇月二五日および二九日の支部代表者会議の確認にふまえて、不退転の決意をこめて、左記の闘争指令を全支部に発出した。

- (1) 全地上勤務者は、一〇月三十一日始業時より十一月一日スト終了時まで、減産B行動を実施すること。
- (2) 全乗務員は、十一月一日始業時よりスト終了時まで、減産B行動を実施すること。但し、国電区間は始業時より正午までとする。
- (3) 成田支部は十一月一日〇時より二四時までの間、燃料輸送列車の指名ストを実施すること。
- (4) 官憲・当局の不当介入・弾圧が行われた場合、闘争拠点を拡大する。全支部はいついかなる場合にも全組合員を対象としたストライキ準備体制を保持すること。
- (5) 一〇月三十一日、十八時、成田支部において総決起集会を開催する。(最大限動員)

全ゆる妨害をのりこえて団結固く前進しよう！
以上